

セルフモニタリング報告書(令和 5 年度分)

令和 6 年 4 月 15 日

施設名 苦小牧市福祉ふれあいセンター

指定管理者名 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

所管課名 障がい福祉課

モニタリング項目	指定管理者 コメント	自己評価
1 事業計画の達成度		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	ほぼ適切に実行	A・ B ・C・D・E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	利用者の増加はあったものの利用率の上昇は未達	A・ B ・C・D・E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか(目標値を設定していないその他の施設)。		A・B・C・D・E
自主事業は計画どおり行われたか。	計画通り実施した	A・ B ・C・D・E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	町内会、関係機関等との連携を積極的に行った	A ・B・C・D・E
2. 利用者の満足度		
利用者の満足が得られているか。	満足度は着実に上がっている	A・ B ・C・D・E
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	ご意見箱の設置や各団体からの要望を常時受け入れている	A・ B ・C・D・E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	迅速に対応している	A・ B ・C・D・E
3 管理運営の効率性		
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	節減意識を共有し、こまめに対応している	A・ B ・C・D・E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	相見積もりを前提とし、選別を行う	A・ B ・C・D・E
収入増加のための取組はされているか。	生活介護の面で見学等の受入れを行っている	A・ B ・C・D・E
4 適正な管理運営		
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	各種研修に積極的	A ・B・C・D・E

	に参加している	
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	定期的な訓練を実施し、万全を期した	A・ 適 ・C・D・E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適正に対応	適 ・不適
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	適切に処理	適 ・不適
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	適正に管理	適 ・不適
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	複数体制で適正に処理	適 ・不適
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適正に実施	適 ・不適
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	適正に管理	適 ・不適
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	適正に管理	適 ・不適
5 地域貢献		
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地元企業と取引	A・ 適 ・C・D・E

- A: 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B: 目標、事業計画どおりの取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C: 概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D: 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E: 目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

自己評価 ★★★★★

（最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。）

[4 適正な管理運営]において不適がある場合、その理由と今後の対応について

指定管理者の自己評価(全体を通して)

コロナウイルス感染症が収束しつつある状況下で 2 年目を迎えた今年度は貸館利用回数が前年度とほぼ同数の 2,418 件で、利用人数は前年度を 633 人上回る 14,994 人となりました。日頃からの施設管理における窓口業務を中心とした、職員による利用者へのおもてなしの精神が一定程度の評価を受けた結果と自負しています。

アンケート結果において「施設全般の運営について」の項目で満足・やや満足が前年度回答率 77%に対し、今年度は 81%と増加したことにも努力の結果が表れていると考えます。

日常業務においては貸館以外の時間帯に冷暖房の停止、消灯をこまめにし、使用時にも適度な温度設定への切替えを行う等無駄をなくし、経費節減を心がけてきました。

更に職員の資質向上を図る為各種研修への積極的な参加を促し、避難訓練・AED 講習・不審者対応教室等を実施し、チームワークを主眼に置いて業務の「共有化」を徹底してきました。

また、自主事業においては地域交流をスローガンに参加者 500 人を超える大盛況となった、ふれあいセンターまつりを筆頭に生活に密着した防災対策やレクリエーション的なゲーム性のある障がい者スポーツ体験等各講座、教室を散りばめながら地域食堂やフリーマーケットといった、町おこしの活動にも取り組む等多種多様な行事を計 10 回 (12 項目)実施し、更に就労継続支援 B 型の事業を開始しました。

今後も発達支援課様、呼吸器内科クリニック様、あさひ様と館内での意思疎通を図りながら近隣住民の皆様との相互理解を深め、福祉現場の拠点として安心してご利用頂ける施設を構築していく所存です。